



刷り込み

『刷り込み(すりこみ, imprinting)とは、動物の生活史のある時期に、特定の物事がごく短時間で覚え込まれ、それが長時間持続する学習現象の一種。刻印づけ、あるいは英語読みそのままインプリンティングとも呼ばれる』

PCで調べるとそう書かれていました。私(わたくし)の場合、動物に関する番組なんかでこの言葉を何回か耳にしたことがあります。11年前にこの四箇郷に赴任したとき、四箇郷の校長先生がとにかく懐(ふところ)の深い方で、そしてお隣の四箇郷北小学校の校長先生がとにかくアクティブな方で、校長のイメージがここで自分にしっかりと刷り込まれたわけです。以後、このお二人を目標としてきました。



「懐の深い方」と「アクティブな方」は対極にあるような気がしますが、このお二人には共通点があったのです。それは自身の背中で物事を教えてくれたこと。短く言えばそういうことです。

日曜参観は11月24日。10:40から教育講演会(ランチルーム)があります。講

師先生は、私が目標としてきた元四箇北校長の杉谷善朗先生です。講演会に残るのではなく、参加するというポジティブな発想でご出席ください。お待ちしております。

ちょっとうれしいお話…。

HPにも掲載していますが、2年生にGT(ゲストティーチャー)が来校されたときのこと。不審者の言葉や行動について、GTから質問があった際、子供たちがしっかりと発表してくれていました。

・道を聞くふりをする ・さがしものを手伝ってくれるように頼む ・家族に頼まれてむかえにきた等々。1学期に話したことを覚えてくれていたことがうれしかったというお話です。

「防犯ブザー」はだいじょうぶ？

家庭での子どもへの指導

- ①いざというときに慌てないよう、ふだんからおうちの人や先生と一緒に、ブザーの鳴らし方・止め方を練習して、ブザーの大きな音にびっくりして慌てないよう、音になれさせておきます。
- ②電池が切れていないか、ちゃんと作動するか定期的に点検を行います。
- ③防犯ブザーは、ランドセルの肩のベルトの部分や手提げカバンなど、すぐ手が届き、鳴らしやすいところに短い紐でつけておきます。
- ④長すぎる紐は凶器になる危険もあるので、首からは絶対にぶら下げないよう指導します。また、一人であぶない場所を通るときは、最初から手に持っておくように伝えます。
- ⑤子どもが毎日防犯ブザーを持って出かけるよう、登下校以外のときも、外に出るときは必ず防犯ブザーを持つように習慣として定着させます。



※子どもを守る防犯ボランティア「スキルアップ教材」<http://www.kids-bouhan.jp/text.htm>より

お家の方でも一度、確かめてください